

学校経営方針(中期経営目標)	昨年の成果と課題	
1 学校評価と教職員評価の定着による教職員の資質の向上と校内組織運営の充実	成果 1 分掌間の連携や全教職員の協力により、生徒指導及び授業規律に関しては一定の改善と共通認識を持つことができ、一昨年度のような大きな問題ははかり減少した。今年度はその具体的成果を結実させる年である。 2 生徒募集に関しては、一昨年度に引き続き、管理職及び部長によるきめ細かな中学校訪問、説明会における説明内容の検討、及び10月以降の(土)(日)の常時見学会受け入れ態勢等が功を奏し、隔年減少による志願者数の減少を食い止め、一定の成果を上げることができた。 3 合同部会が定着し始め、分掌間の連携が有機的なものになりつつある。	1 安心・安全の学校生活の確立
2 水産・海洋の将来のスペシャリストの育成	課題 1 生徒指導に関しては、ゼロトレランスの概念も視野に入れ、規律ある学校生活の充実のため、よりきめ細かく徹底した生徒指導を行う必要がある。 2 生徒募集全体では成果があがったが、長期的課題としては、丹後教育局管内の生徒募集の強化があげられる。中学生にとって、より魅力ある情報を発信するなど創意工夫し、学校理解の活動を一層推進する必要がある。 3 合同部会を充実させ、分掌間の連携を密にし、より効果的な学校運営を図る必要がある。 4 老朽化や海水による腐食等による昨年度のトラブルを踏まえ、安心・安全の生活の観点から施設・設備を徹底的に再点検する必要がある。 5 学科改編の趣旨に沿った、各学科の充実(特に海洋科学科の進路実現)には、今後の指導の余地を残した。	2 効果的な運営を目指した各分掌間の有機的な連携の強化
3 生徒指導の充実と授業規律の確立		3 学科改編の趣旨に沿った各学科の充実と活性化及び資格取得数の向上
4 部活動の活性化		4 きめ細かな指導の徹底と希望進路の実現
		5 「授業規律の確立・生徒指導及び人権教育の充実・部活動の活性化」に向けての具体的方策の実施

(評価の方法) 評価は具体的方策の項目ごとにA～Dの4段階で表記する。

A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった

(成果と課題の記入方法) 分掌・教科全体で記入。ただし、各分掌・各教科の実情により重点目標ごとに記入してもよい。

評価領域	重点目標(取組の重点課題)	具体的方策	評価		成果と課題
			年	度	
組織運営	学校経営計画の定着	学校経営計画の進捗状況を、各分掌・教科は学期に1回は点検を行う。 生徒・保護者・学校評議員対象に外部評価を実施する。 2学期に中間評価、学年末に総括評価を行い、学年末には結果を学校評議員に公表し意見を求める。	B	B	毎学期の点検率は57%となった。特に2学期末はできていない。分掌により差もある。 対象者全員に年1回実施。生徒には授業評価も実施。結果はわずかに改善。経年比較しやすいまとめ方が課題 2月23日に学校評議員に公表。4月には学校HPでの公表予定 平均回数は10回を超えた。成果度低い分掌もあり、横の繋がりを意識した部会の実施が必要 活用状況は1学期2例。次年度活用方法の周知徹底が必要
	各種行事・会議、部・同好会の円滑な運営	部長は関係分掌合同部会等で連携強化を図り、円滑な運営や活動をする。 部・同好会顧問は全体補助者の活用により、円滑な運営や活動をする。	B	B	
総務企画部	小・中学校との連携を強化し、志願者数の確保に努める。	1,000人以上の小・中学生を海洋高校の体験に参加していただく。 推薦・一般をあわせて出願者数を140人以上とする。	A	C	小中高連携事業595人、小学生体験乗船327人、中学生体験学習210人、学校見学会91人、1・2年生体験会9人、計1232人。小中高連携と体験乗船の合体必要。 目標達成できず。 新たな戦略が必要。 年度末の追い込みで目標達成 37回更新 機材不調もあり、目標達成できず。 送信 6回 昨年度好評のかわら版、活発な発行を目指したが、3回のみ 学校だより9回、昨年度並みの発行ができた。 カレンダー7回など、ポスター(業者)は実現できず。 学科部長・コース主任会議で、20回検討は図ったが、構築までには至らず。 2月初め現在21回の実施  10～15名の幅、大体12名くらい参加。 参加者が固定化している。 計画とおり、多彩な行事を実施した。 行事による幅(10～30名)、20名くらいの参加。 呼びかけでも集まらない。メンバーの固定化。  8割以上が「よかった」、アンケート結果から意識向上が見られる。講師予算、日程調整問題が残る。 1年生1回、2年生1回 ビデオ教材を取り入れる。 7割以上が「よかった」のコメント。
	広報活動の活性化を図る。	HPを年1回以上刷新するとともに、月3回以上更新する。 PTA向けにメールによる情報配信を定着させる。 学校だよりを年10回、地域かわら版を年8回以上それぞれ発行する。 ポスター、先輩からのメッセージ、カレンダーをあわせ、年10回以上発行する。	A	B	
	専門教育の充実と成果の発信に努める。	各学科で系統的かつ魅力ある課題研究及び(集中)実習計画を構築する。	A	A	
	専門学科教員の連携を深め情報の共有を図ることで、取組等に対する共通認識を持つ。	合同部会を定例化し、部員の情報共有と共通認識に努める。(学科部長・コース主任会議を年20回以上実施する。)	B	B	
	(PTA) PTA活動に多くの会員に参与してもらえよう努める。	各委員会の組織整備を軸に責任、分担の明確化、各委員意識の向上を図る。 年間を通じてさまざまなニーズに応えることのできる多彩な行事を企画することで多くの会員にPTAの活動に参加してもらえよう努力する。 PTA情報のHPへの更新を年10回以上行う。	C	B	
	(人権教育) 人権教育の充実を図る。	知識理解にとどまらず意識を高める教職員研修を年2回実施する。 心にとどく視聴覚教材を活かした人権学習の企画に努める。	B	B	
教務部	個に応じた指導の充実を図り、原級留置・中途退学を防止する。(進路変更生徒を10名以下にする。)	学年部との合同部会を実施し、生徒の状況把握に努め、連携した指導を行う。 教科主任会議及び教科担当者会議を実施し、生徒の状況把握と指導法についての連携を図る。 定期考査前や長期休業中に、課題を有する生徒を中心に学力補充を行う。 仮進級生徒の指導を学年部・教科と協力し、追認合格率を向上させる。	B	D	3回以上実施 教科主任会の有効活用ができなかった。 5回以上実施 有効に実施したい。 100%実施 各項目の取組については、効果的に行えたものが多かったが、結果として原留中退の防止としては、評価規準からDとした。 学年部の指導により、遅刻の減少につながったが、学年部により指導の差がでた。  欠課時数超過については、年度末評価  報告用紙の活用は一定できたが、教科によってその運用に差があり、全体として十分な指導に至らなかったケースもあった。担当者会議学期3回  多くの研究授業及び公開授業を実施できたが、授業の関係上、参観できにくい状況であった。3回実施
	授業規律を確立する。	遅刻・欠席の防止 朝読書の遅刻・欠席の生徒への指導を学年部・生徒指導と連携し、強化する。 学年部及び教科と連携し、欠席時数超過による不認定を出さない。 学年部及び教科と連携した授業規律の確立 授業規律報告用紙の有効活用と事後指導の徹底を行う。 学年部との合同部会、教科担当者会議により、共通認識を持った指導を行う。	B	C	
	教科指導力の向上を図る。	研究授業週間を設定し、授業を公開し、研修することにより、指導力の向上を図る。(2学期に実施研修計画再掲) 授業自己評価シートの活用による授業改善を行う。	B	B	
	規律報告用紙の活用(十分な理解と活用)	授業だけでなく、あらゆる場面で全教職員が指導を入れ、指導に従えない生徒には用紙を提出することを告げる。その後提出する。この流れをしっかりと全教職員が認識する。	B	B	
生徒指導部	服装・頭髪指導の徹底(全教職員で当たり、直すまでやりきる。)	式典とテスト中に全校で点検を行い、直す日を約束させ、生徒指導部学年担当者が直すまでやりきる。	A	A	その場で修正できる者がほとんどで、それ以外も合格した。  式典の際には必ず実施できた。紹介できる材料も増えた。該当する生徒はもちろん、全体の自信にもなった。 外部の評価は高かった。後にもイベントなどに参加し、良いPRになった。共通理解に対して配慮が必要であった。 レスリング全国大会出場、ポート府下大会優勝 バドミントン近畿大会出場など、活躍できた。
	やる気を育てる(あらゆる場面で活躍した生徒を紹介する。)	活躍した生徒を紹介し、全校で理解する。	A	A	
	学校祭の充実(地域性や海洋ならではの内容に検討する。)	海洋祭を、継続性と中身のある内容に検討し実行する。	B	B	
	クラブ活動の活性化(同好会をクラブに昇格させる。)	人数や活動内容を充実させ、年間通じてクラブ活動を行い、同好会をクラブに昇格させる。	B	B	

進路指導部	的確な指導を実践し、希望に応じた就職内定を得る	現状における主な進路先との信頼関係を強めるとともに、新規開拓にも努める(会社訪問30社)。				就職1次内定率91% 未定者数 5名(H19.2.8現) 進路意識調査で86%が満足(就職) ・企業訪問43社 ・就職補習3講座実施 ・面接練習8回/生徒一人当たり ・課題:内定後の意識低下 大学進学者17名(国公立4名) 進学1次合格率95% 偏差値向上率 - 5.3% ・大学等訪問 15大学 ・進学補習実施率88.6%(1/31現在) ・大学別指導体制(担任・進路中心) 3年生進路目標の決定82% 8月末(就:25/30、進:33/40名) 2年生(6.3%)、1年生(5.7%) ・進路HRは予定通り実施した。 1年(8/8回)、2年(12/12回)、3年(7/6回) ・6月の個人面談3年生全員
	就職1次内定率を67%以上目指す 未定者数を2年連続5名以内にとどめる 進路意識調査で75%以上の満足度を得る	就職補習(3講座)、面接練習(8回)等を適切に運用する。	A	A		
	個の状況や適性に応じた進学先を選択させ、1次合格率を高める。	高大連携を視野に入れた大学訪問を実施(10大学)する。	B	B	B	
	大学進学数10名(内国公立大 3名) 進学1次合格率75% 2年府実力テストの偏差値向上率65% キャリア教育を系統的に実施し、学年に応じた進路意識を養成する。 3年生進路目標の決定(8月末)80% 2年生進路目標の決定(2月末)65% 1年生進路目標の決定(2月末)50%	進路補習等の実施率を向上させる。(70%) 大学別(個別)指導体制を確立する。(進学希望者全員) 進路ホームルーム等を系統的・計画的に実施する。(1年8回、2年12回、3年8回) 進路指導部による個人面談を実施する。(3年:6月に全員、2年:2月に30人以上)	B	B		
保健部	学習環境の整備と清掃活動の徹底を図る。	定期考査毎に清掃の出席状況を点検し、欠席者をなくす。 月1回教室環境の点検を行い、環境美化の意識向上を図る。	C	C	C	監督からの出席簿の回収不足。意識高揚が課題 各クラスにより姿勢に格差あり。徐々に定着しつつある。
	特別支援を要する生徒に具体的支援を講じる。	1年学年部と連携して、生徒の学習会を実施する。 教職員研修を行い理解を深める。	B	B	B	参加者の意欲を持続させる働きかけが必要 軽度発達障害に対する基礎知識は定着してきた。
1学年部	進路目標を早期に決定させる。	コース選択の際に卒業後の進路も合わせて考えるように継続的に指導する。 早期の進路学習の実施を図る。	A	A		2月の進路希望調査実施後に評価決定
	進路目標に合わせて各生徒の実力を伸ばさせる。	日々の授業を大切にすることを継続的に指導する。 進学希望生徒の進学補習への参加を促進する。 部活動への参加を促進する。	B	D	B	第2回府立高実力テストの結果により評価。 進学補習の年間平均で10%台であった。 部活動への参加率は約55%であった。 生徒指導件数33件、授業規律カード19枚
	学校生活における規律を確立する。	朝読書、SHRの際に授業規律や服装等について継続的に指導する。 家庭連絡を徹底し、家庭との連携を図る。 各学期、学年集会を実施する。	C	C	B	学年会実施率約90% ほぼ月一回のペースで分掌間会議を実施した。 報告回数は14回の会議中5回であった。
	分掌内及分掌間の連携を図る。	週1回学年会を実施する。 月1回程度、分掌間会議を実施する。 毎回の職員会議で1年生の状況について報告する。	A	A	B	定例化して実施できなかった。 約60%の実施率であった。 概ね良好であった。 指導の徹底に問題はあるが、約90%の実施率であった。 約60%の実施率であった。 各学期に2-3回実施できた。 全生徒に対して、まだ資格取得の確認ができていない。 各学期に1-2回実施できた。 90%以上の生徒が受験したが、事後指導に工夫が必要である。
2学年部	生徒の実態を把握し、家庭との連携を密にしながら、適切な指導を行う。	授業担当教諭との情報交換を毎月1回行う。 生徒の個人懇談を各学期に1回行う。 家庭との連絡を密に取り、協力して生徒の指導に当たる。	D	C	C	進路実現については、満足できる結果であった。評価基準は左欄参照。 評価基準「苦情・特別指導の減少」、「年度当初と生徒状況が改善」、「担任クラス経営の充実度」はクラスによりばらつきがあり、未達。他の評価基準「他分掌と連携した学年集会の多用」、「行事の充実度」、「清掃不参加者の減少」は達成。したがって、評価基準10項目中3項目未達であり、総合評価は「B」とする。
	個々の生徒に規範意識を育て、集団としての規律を確保する。	朝読書の際、服装、頭髪等の指導を毎日行う。 「自己チェックシート」を学期に1回実施し、指導を徹底する。 学年集会を各学期に2回以上開催する。	A	C	B	
	学科・コースの学習を意欲的に進めるため、資格取得を促す。	全員の生徒に1個以上の資格取得に取り組みさせる。	未	未		
	進路実現を目指して、進路指導部と連携して、指導を強化する。	進路HRを毎月1回行う。 進路別の模擬試験(あるいは実力診断テスト)を各学期に1回、全員に受験させる。	A	B	A	
3学年部	進路実現 大学進学数 10名 (国公立大学 3名) 進学1次合格率 75% 就職1次内定率 67% 就職未定者数 5名以内	進路実現のための取り組みの早期開始と徹底 生徒個々の希望進路に合わせてきめ細かな指導	A			
	授業規律の確立 教科担任からの苦情「0」を目指す。	クラス経営を充実させるために、学年集会を多用する。 学年集会を受けたクラス経営の充実	B	B	B	
	能動的・先回りの生徒指導の確立 朝読書・清掃活動の充実 特別指導「0」を目指す。 海洋祭で指導的役割を果たし、成功に導く。	学年集会の多用 進路指導部・教務部・生徒指導部との連携	B			学年集会を多用したが、クラス経営の充実度にはばらつきがあった。また、年度当初との比較で、生徒状況には全体的には改善が見られたが、やはり、クラスによりばらつきがあり、不十分と言わざるをえない。
海洋科学科	(1年生) 学科・コース選択のガイダンスを充実させ、海洋科学科に進級を希望する生徒を増加させる。	府立高校実力テスト結果等も参考にしながら、目的意識の高い生徒を選択させる。	B	B		20名の選択。1学年部の尽力 総務企画部として、成績等による尋問には至れず。 概ね良好
	(2年生) 水産系大学志願者数を増加させる。 資格取得の増加を図る。	水産系大学への進学を推進する。 資格取得に意欲的に取り組ませる。 (栽培漁業技術検定2級、漁業技術検定、食品技能検定1種、危険物取扱者乙種4級、2級小型船舶操縦士など)	B	D	C	資格取得には、若干結果が伴わなかった。
	(3年生) 大学進学希望生徒の動機付けと希望進路達成を図る。	水産系大学への進学を推進する。	A	A		5名の進学達成。担任の尽力
	海洋科学科についての共通認識をもつ。	海洋科学科会議(合同部会)を定例化し、教育内容の検討と共通認識に努める。(学科教員、担任、教科担当者で年20回以上実施)	D	D		2月初め現在12回の実施
海洋工学科	航海船舶コース 船の乗組員として必要とされる知識と技術を習得させる。	四級海技士合格者数を増加させる。 コースに関連した進路指導を勧める。	D	C		1月時点で合格者数1名、2月に望みあり、全員が希望進路へと進む。
	海洋技術コース 土木施工、作業潜水に必要とされる知識と技術を習得させる。	潜水士10名合格させる。 希望進路を80%以上実現させる。	C	B	B	1月に10名受験し、6名合格 希望進路を100%実現させた。
	栽培環境コ-ス 栽培漁業実習棟を整理・整頓し、活用を図る。 コース会議を定例化し、その内容を充実させる。 生産物の出荷20万円以上を目指す。	栽培環境コ-ス 栽培漁業実習棟を整理・整頓し、活用を図る。 コース会議を定例化し、その内容を充実させる。 生産物の出荷20万円以上を目指す。	B	A	B	水槽収容率は、90%となり、整理を行なった。 コース会議を21回(2月24日予定)行なった。 生産物の出荷が、約20万円(2月24日予定)となった。 食品技能検定1類24名受検13名合格 2類5名受検2名合格 3類10名受検2名合格 13回実施
海洋資源科	生物飼育や海洋環境、水産生物の利用に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	食品経済コース 卒業後の即戦力を目指し、より高度な資格取得の充実を図る。 コース会議を定例化し、その内容を充実させる。	A	B	B	

事務部	学習環境の整備と安心・安全の確保に努める。	学習環境にかかわる定期点検を各分掌と連携しながら改善箇所の早期発見・早期改修に努める。(年1回) 複数人で来校者の確認を行い、不審者の侵入を阻止する。	B B	B	ガス検知については保健部が実施。水質検査については保健部と事務部がそれぞれ実施。照度検査については事務室が実施した。 来校者についての確認は95%以上できたが、一部確認が遅れたことがある。(主に時間外の保護者招喚者)  1学期1回(修繕箇所の調査)、2学期1回(グラウンドフェンス回りの確認、敷地内巡視)、3学期1回(敷地内巡視)、合計3回実施した。突発的な改修についてはその都度対応した。要望2年目にして予算が付き、グラウンドフェンス回りの改修が完了した。まだまだ、改修の必要な箇所あり。 担当者間での打合せについては、個々に行っているが、連絡調整の会議としては次の三つに参加した。みずなぎの船員との手当及び勤務についての調整・ドックオーダーの調整及びT推進会議への参加。
	施設、設備の安全管理の徹底に努める。	各学期1回、施設・設備の安全点検を行い危険箇所及び改善箇所の早期発見・早期改修に努める。特に老朽化や塩害によるトラブルを未然に防ぐため徹底した点検を行う。	B A	B	
	関係分掌との連絡調整を行い目的達成のため連携を深める。	各学期1回、実習船「みずなぎ」や各学科と、効率的な予算の執行、収入及び施設・設備の維持管理等について連絡調整を行い、各分掌の目的達成に向けて連携を深める。	B B	B	
寮務部	規律正しい生活を高める。 学習成績の向上。 クラブ加入率を高める。 舎監による指導体制の一致を図る。	反省文がでないように寮生活の手引き指導を確認。 学習時間帯に舎監による学習指導。 クラブ未加入者に面談しクラブ活動等の指導を行う。 職員会議後舎監会議を開き情報の共有化を図る。	C C A D	C	各学期ごとに確認を行った。 毎日実施し、学力向上につながった。 39名中38名加入 97% 14回職会中9回実施
実習船 「みずなぎ」	安全、安心に実習運航出来る様努める。	実習全ての乗船中は毎日、全員の体調チェックを行なう。 海上気象警報が発令されている時は実習出港しない。	A B	A	実習生16航海で全て行う。 100%  74日間航海中11日気象警報が発令されている条件下で運航している。生徒の安全を考えたのか検討された。 85% 、16航海で16回・100%
	関係職員との連携を深める。	実習前には関係教職員と十分な打合せを行なう。 各実習終了後は必ず反省会を行う。	A A	A	
	生徒指導部研修 やる気を育てる (レスリング世界チャンピオンの講演) 服装のTPOについて (制服業者社長の講演)	レスリング世界選手権優勝の正田絢子(網野高校出身)の講演(いろいろな生き方から自分を見つめ直す機会にしたい。) 校制服業者 社長 清礼義行 様の講演 (制服の着こなしから、社会のマナーまで幅広く社会人の話を聞く機会にしたい。)	A A A	A	
研修計画	総務企画部	水産教育の充実について(8月)	水産教育研究会を実施する。(年2回以上)	B B	内容の充実が必要 年度末に研修会実施できず。 職員会議での説明のみ。 実施できたが、参観者増加が課題 昨年度より規模拡大、副校長尽力 年1回の実施、2回目も企画したが時間調整がう
		学科改編の成果と課題について(通年)	教員研修会を年2回実施するとともに、部内でのまとめ冊子	D D	
		学校評価(授業評価等)について(通年)	教員研修会を年2回実施する。	C C	
	教務部	研究授業(教務部と連携)	公開授業を実施する。(年1回)	C C	
		小中学校との連携について(1,2学期)	小中高連携事業の内容を継続充実させる。	A A	
		人権教育の充実を図る。	知識理解にとどまらず意識を高める教職員研修を年2回実施	B B	
海洋科学科	教科指導力の向上を図る。	研究授業週間を設定し、授業を公開し、研修することにより指導力の向上を図る。(2学期に実施研修計画を再掲) 授業自己評価シートの活用による授業改善を行う。	B B	C	
	校務システムの運用について	校務システムの有効運用にむけて、1学期に研修を行う。	D D		
	科目「課題研究」のあり方について(通年)	系統的な指導方法を確立し、指導書を作成する。	A A	B	
進路指導部	科目「総合実習」のあり方について	系統的な指導方法を確立し、指導書を作成する。	B B	B	
	集中実習のあり方について	系統的な指導方法を確立し、指導書を作成する。	B B	B	
	進路研修会 第1回「今年度の進路希望状況と対策、府高実力テスト分析等について」(6月)	ビデオプロジェクター等を活用し、理解が深まるよう工夫する。 ワークショップ形式による研修形態で実施する。(第2回)	A A	A	
保健部	第2回「平成18年度の進路指導のまとめ」(3月)	分野の担当者が十分な資料や知識等を持って運用する。	A	A	
	特別支援を要する生徒の具体的支援について 救命講習(AEDを含む)	生徒の状況把握により、与謝の海養護学校のサポートチームによる指導・助言を受ける。 消防署による救命講習を実施する。	B B	B	
次年度に向けた改善の方向性					